

令和7年産 紀南の梅産地情報

2025/04/18

1. 4月11日の定点調査では、着果数は主力の南高では前年より多く平年よりやや少ない、古城は前年より多く平年並み、小梅は前年より多く平年よりやや多くなった。



南高は満開期以降の天候不良によりミツバチの活動が抑制されたことが着果に大きく影響したと考えられる。

また、4月6日・11日・14日には、強い寒気が流れ込み、紀南の広い範囲で雹が降り、等級を著しく低下させる甚大な被害が発生している。

■定点調査の着果数（枝径2㍉の枝当たり）と着果率

品 種	令和7年				令和6年		平年（10年間）	
	着果率	着果数	前年比	平年比	着果率	着果数	着果率	着果数
小 梅	30.6%	129 果	224%	114%	16.0%	58 果	33.0%	113 果
古 城	5.8%	20 果	155%	92%	4.2%	13 果	6.9%	22 果
南 高	11.2%	33 果	144%	81%	9.4%	23 果	14.8%	41 果
在来系	13.6%	98 果	702%	199%	2.9%	14 果	14.3%	49 果

2. 4月11日時点の定点調査の実肥りは、小梅 11.4mm（平年比 82%）、古城 11.8mm（平年比 62%）、南高 12.2mm（平年比 59%）と小梅は平年よりやや小さく、古城・南高は平年より小さくなった。
3. 4月11日梅部会まとめの生産予想量は、小梅 652 トン（前年比 325%、平年比 95%）、古城 252 トン（前年比 197%、平年比 58%）、南高 12,738 トン（前年比 124%、平年比 62%）、在来系 316 トン（前年比 228%、平年比 79%）を見込んでいる。
4. 本年産の青梅販売方針は、計画的安定出荷を基本に作柄と降雹被害を踏まえ、卸売会社との連携により事前企画を強化し、市場青梅販売計画数量 1,960 トン（前年比 138%）を目標として取り組む。
5. 3月中旬以降、降水量は前年より少なく平年並み～やや少なくなった。

月 旬	平均気温 °C				降水量 mm			
	7 年	6 年	5 年	平年	7 年	6 年	5 年	平年
3 月中旬	10.1	10.1	13.2	11.2	24.0	82.5	50.5	41.3
3 月下旬	14.7	12.9	14.8	12.1	35.5	118.0	48.5	45.6
4 月上旬	13.8	15.8	15.1	14.0	43.5	64.0	48.5	43.3

南紀白浜気象データより